

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2011年6月18日）

今日も朝からよいお天気でした。本日の活動への参加者は37名で、内訳は、男性16名、女性21名、所属では、学生12名、市民23名、教員2名でした。活動に参加した回数では、初参加14名、2-3回10名、4-6回8名、12-13回4名、不明1名となり、今回は初参加の方が多かったようです。ご家族3人での参加もありました。本日の事務局は、齋藤さん、福士さん、荒井さんの3名と山口で担当しました。

野田村災害ボランティア・センターの方の話によると、本日のセンターを通じたボランティア数は、団体10（137名）と個人13名で、計150名でした。派遣先は10ヶ所でした。センターを通じたボランティアの数は、さすがに週末は多いですが、最近の平日は30~40名です。例えば、支援物資の仕分けの作業は、個人の方からの要望が平日に多いにもかかわらず、人手が足りないようでした。ただ、平日はどうしても仕事や学業で参加できない人が多く、チーム・オール弘前の活動は、6月から土曜と水曜を交互に行くようになりましたが、これは正解だったように思います。



本日の参加者。明るい日差しの中で。



大きなガレキがだいぶ片付いてきました。

本日のチーム・オール弘前の活動は、ガレキ撤去（27名）と物資の仕分け（10名）の大きく2つに分かれて行いました。

ガレキ撤去組は、午前中は海側に近い個人の田んぼにて、埋まっているガレキを取り出す作業、午後は側溝の泥上げ作業でした。カラスや湧いてくる虫と闘いながらでしたが、着々と作業は進んだそうです。「土の中にたまったガレキを撤去するのがこんなに大変とは思わなかった」「思ったよりきつかったけど楽しかった」「今日はまだ涼しくてやりやすかった」などの感想がありました。

物資の仕分けは、このところ、個人の要望の紙にそって、体育館の支援物資の山から必要なものを集め、個人ごとに段ボールなどにつめる、という作業が続いています。今回の私たちの作業もこちらを行いました。最初は必要なものが広い体育館のどこにあるかが分からなくて時間がかかりましたが、慣れてくるとがぜんスピードアップしました。お届け先の家族構成を思い浮かべることができる作業は、より顔の見える支援と感じることができ、やりがいがあった、と感想を持つ方もいらっしゃいました。



要望のあった物資をそろえる。



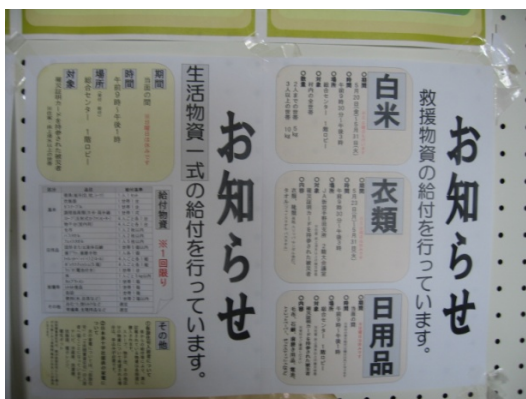
ブルーシートの上の物が仕分けを終えた物資。

その他の感想としては、「リーダーの指示が的確でよかった」「いつもガレキ撤去なので、物資の仕分けもやってみたい」「リーダーがはっきり分かるように、リーダーマークをつけたらどうか」などの声や、「今日は野田村の方とお話したいと思い、昼休みに村役場の裏手にあるJAの産地直売所に行きました。たくさんお話ができて良かったです。そこで作っているお豆腐が大変おいしく、お昼ごはんに冷ややつこはいかがでしょうか。また氷もあるので、クーラーボックスを持っていけば、持ち帰りもできます。是非、みなさんどうぞ！」という素敵なお薦めもありました。

帰りには、村内で商品を購入するのも支援につながると考え、「道の駅のだ」に寄りました。名産の「のだ塩」は震災の影響で購買数が限られ、残念ながら購入はかないませんでした。そのほか買物をしました。また、参加者にご協力いただいているアンケートに、バスの中でもう少し寝かせて欲しい、との要望があったのを受けて、往復のバスの中のガイダンスや感想を共有する時間を変えてみましたが、こちらの予想が甘く、時間が足りなくなりました。次回以降はもう少しうまく調整したいと思います。

当初から、走りながら考える活動になっていますが、できるだけ多くの方の声を聞きながら、よりよい支援・交流活動にしていきたいと思いました。

(人文学部・山口恵子記)



支援物資に関する住民の方へのお知らせ



「道の駅のだ」で目指すは「のだ塩ソフト」